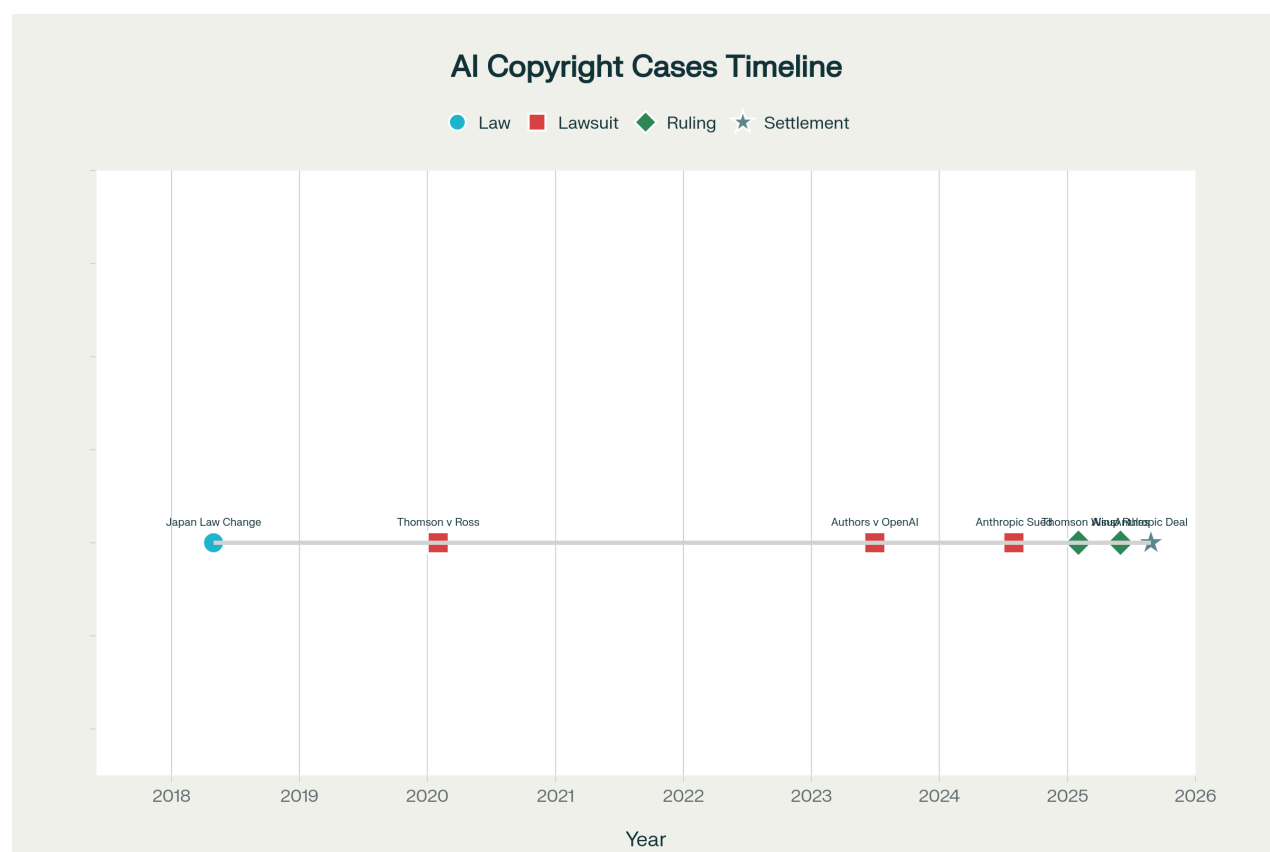




AI無断学習訴訟における歴史的和解：Anthropic事件の深層分析

米アンソロピック社と作家3名による著作権侵害訴訟の和解合意は、生成AI業界における著作権問題の転換点として歴史的意義を持つ。この和解は、AI企業による著作物の無断学習という現代的課題に対する初の包括的解決例であり、今後の類似訴訟や業界慣行に広範囲な影響を与えることが予想される。本事件の背景には、従来の著作権法とAI技術の急速な発展との間に生じた法的空白があり、その解決策を模索する過程で明らかになった複雑な法的・経済的問題群が存在する。^{[1] [2] [3] [4] [5]}



AI著作権訴訟の主要な展開とAnthropicの和解に至るまでの経緯

Anthropic訴訟の概要と法的争点

事件の経緯と当事者

2024年8月、ミステリー小説家のアンドレア・バーツ、ノンフィクション作家のチャールズ・グレーバー、そしてカーク・ウォレス・ジョンソンの3名が、生成AI企業のAnthropic社を著作権侵害で提訴した。原告らは、同社が自社の書籍を含む700万冊以上の著作物を無断でAIモデル「Claude」の学習に使用したと主張した。特に問題視されたのは、Anthropic社が合法的に購入した書籍のデジタル化

に加え、LibGenやPiLiMiといった「シャドウライブラリ」と呼ばれる海賊版サイトから大量の書籍をダウンロードし、AIの訓練データとして利用していた点である。^{[2] [6] [7] [8] [9] [10]}

Alsup判事による分割判決

2025年6月、カリフォルニア州北部連邦地裁のウィリアム・アルサップ判事は、この事件において画期的な分割判決を下した。判事は、Anthropic社による合法的に購入された書籍の学習利用については「本質的に変革的」であり、フェアユース（公正利用）の原則に該当すると判断した。しかし同時に、海賊版サイトからダウンロードした書籍の保存と利用については著作権侵害に当たると認定し、この部分について別途裁判を行うことを決定した。^{[11] [12] [13]}

この判決の重要性は、AI学習におけるフェアユースの適用を初めて部分的に認めた点にある。アルサップ判事は「読者志望の作家と同様に、AnthropicのAI大規模言語モデルは、作品を複製や代替を目的とするのではなく、全く異なる方向に転換して何か違うものを創造するために学習した」と述べ、AI学習の変革的性質を強調した。^{[2] [3]}

巨額損害のリスクと業界への衝撃

Anthropic社が直面していた潜在的損害額は業界全体を震撼させるものであった。米国著作権法における法定損害額は、侵害1件あたり750ドルから15万ドルの範囲で設定されており、700万冊の書籍が対象となれば、理論上最大1兆500億ドル（約154兆円）の損害賠償が発生する可能性があった。業界団体は「単一の地方裁判所の誤りが、Anthropicのような変革的な生成AI企業の運命を決定すべきではない」として上訴を支援し、「米国のAI業界全体と世界的な技術競争力」への脅威を警告していた。^{[7] [14] [5] [15] [16]}

フェアユース原則とAI学習の法的位置づけ

米国におけるフェアユース判断の展開

米国の著作権法におけるフェアユースの判断は、4つの要素に基づいて行われる：(1)利用の目的と性格（変革的性質を含む）、(2)著作物の性質、(3)利用された部分の量と重要性、(4)著作物の市場への影響である。Anthropic事件では、第1要素（変革的利用）と第4要素（市場への影響）が特に重視された。^{[17] [18] [19]}

アルサップ判事は、AI学習プロセスを「言語を生成するためのモデル訓練」として位置づけ、これが元の書籍の複製や読書とは根本的に異なる目的であると判断した。しかし、同じ時期に下された他の判決では異なる結論が示されており、AI学習に対するフェアユース適用の一貫性は確立されていない。^{[12] [19]}

対照的な判決：Thomson Reuters事件

2025年2月、デラウェア連邦地裁は「Thomson Reuters v. Ross Intelligence」事件において、AI学習に対するフェアユース適用を否定する判決を下した。この事件では、Ross社がThomson ReutersのWestlawデータベースから法的情報を学習に利用したことが争われ、裁判所は(1)商業目的での利用であること、(2)競合製品の開発につながったことを理由にフェアユースを否定した。^{[20] [19] [21]}

この対照的な判決は、AI学習におけるフェアユース適用が事案ごとの具体的状況に大きく依存することを示している。特に、学習されたAIが元の著作物の市場と直接競合する場合、フェアユース適用は

困難になる傾向がある。^{[19] [22]}

シャドウライブラリ問題の深刻性

AI企業による海賊版サイトの利用は、著作権侵害の明確な証拠として法廷で重視された。Anna's Archiveのような「シャドウライブラリ」は、10万ドルの暗号通貨決済で1億4000万冊の海賊版書籍へのアクセスを提供しており、少なくとも30社のAI企業がこれらのサービスを利用していると報告されている。Anthropic社の場合、LibGenから取得した書籍の30%を再アップロードしていたという証拠も発見され、単なる利用にとどまらず海賊版流通への積極的関与が疑われた。^{[6] [23]}

日本と海外の著作権法制比較分析

日本の著作権法第30条の4の特徴

日本は2018年の著作権法改正により、世界で最もAI学習に寛容な法制度を整備した。第30条の4は「情報解析」目的での著作物利用を広く許可しており、営利・非営利を問わず、さらには違法に取得されたコンテンツであってもAI学習に利用できる極めて柔軟な規定となっている。^{[24] [25] [26] [27] [28]}

この条文の背景には、IoT・ビッグデータ・AI等の「第4次産業革命」技術の発展に対応し、日本のイノベーション創出を促進する政策意図があった。文化庁は「著作権者の利益を不当に害する場合」を除き、広範囲でのAI学習を許可する方針を示しており、日本は「機械学習の楽園」と呼ばれるまでになった。^{[27] [28] [29]}

国際的な法制度の相違

米国とEUは日本とは対照的なアプローチを採用している。EUの2019年著作権指令では、商用目的でのテキスト・データマイニング（TDM）について権利者の「オプトアウト表明」を認めており、2024年のAI規制法（AI Act）では生成AIプロバイダーに対して訓練データの透明性義務を課している。^{[26] [30]}

米国では包括的なAI学習規定は存在せず、個別事案ごとのフェアユース判断に委ねられている。しかし、連邦著作権局は「公開されたWebコンテンツのスクレイピングに比較的寛容な判例」があることを認めつつも、生成AIの文脈では従来より厳格な判断がなされる可能性を示唆している。^{[21] [31]}

日本法制の見直し議論

日本でも生成AIの急速な普及を受けて法制度の見直し議論が活発化している。2024年12月、日本新聞協会は政府に対して現行制度の再考を求める要望書を提出し、(1)訓練データの透明性確保、(2)ライセンス・補償の枠組み構築、(3)AI生成物の権利関係明確化を求めた。文化庁は2025年の「知的財産戦略プログラム2025」でこれらの課題に対応する方針を示している。^{[26] [29]}

和解の意義と業界への影響

史上初のAI著作権集団訴訟和解

2025年8月27日に発表されたAnthropic社との和解合意は、生成AI分野における著作権集団訴訟の初の解決例として歴史的意義を持つ。和解の詳細条件は9月5日に公開予定であるが、原告側弁護士は「歴史的和解であり、すべてのクラス構成員に利益をもたらす」と声明を発表している。^{[1] [3] [32] [33] [34] [5]}

この和解により、最大700万人の作家・出版関係者が補償を受ける可能性があり、その規模は業界史上最大級となる見込みである。特に注目されるのは、合法的に取得された書籍の学習利用が「フェアユース」と認定される中での和解であることで、これは海賊版利用に対する制裁的意味合いを持つと解釈されている。^{[34] [35] [5]}

他社への波及効果と業界再編

Anthropic社の和解は、同様の訴訟を抱える他のAI企業に大きな影響を与えている。OpenAI、Meta、Microsoftなどの大手企業も複数の著作権侵害訴訟を抱えており、今回の和解が示した「海賊版利用は高額和解、合法取得なら防御可能」という判例は、業界全体の戦略見直しを促している。^{[36] [4] [5]}

業界専門家は「この和解が雛形となって他の類似ケースも解決される可能性が高い」と分析しており、今後のAI開発における著作権コンプライアンス体制の強化が急務となっている。特に「シャドウライブラリ」からの学習データ取得は、法的リスクが極めて高いことが明確になったため、AI企業は合法的なデータ取得経路の確保に注力している。^{[1] [6] [7]}

ライセンス市場の形成と創作者保護

今回の和解は、AI学習用データの適正なライセンス市場形成への重要な一歩となる可能性がある。従来、AI企業は「フェアユース」や「変革的利用」を根拠に著作物を無償で学習に利用してきたが、今後は権利者との間で事前のライセンス契約を締結する動きが加速すると予想される。^{[33] [26]}

著作者団体側も今回の成果を評価しており、Authors Guild（全米作家組合）は「Anthropicが交渉のテーブルに着き、作家と出版社に補償を支払うことに合意したことを歓迎する」として、「AI業界に対する強いメッセージ」だと表明している。この動きは、創作者の権利保護と技術革新のバランスを取る新たな枠組み構築につながることが期待される。^[33]

今後の展望と課題

法制度整備の必要性

今回のAnthropic和解は問題の根本的解決ではなく、より包括的な法制度整備の必要性を浮き彫りにしている。現在進行中の類似訴訟には、Universal Music GroupによるAnthropic社への歌詞利用に関する訴訟、Getty ImagesによるStability AI社への画像利用訴訟、カナダでのCanLII v. Caseway AI事件などがあり、各事案の結果が業界標準の形成に影響を与える。^{[37] [4]}

米国議会や最高裁判所による統一的な指針策定を求める声も高まっており、「破壊的技術と時代遅れの法的枠組みが衝突する際、裁判所だけでは包括的解決策を構築することは困難」との指摘がなされている。特に、フェアユース判断の一貫性確保と、AI開発における適正な権利処理手続きの確立が急務である。^[17]

国際的協調の重要性

AI技術の国境を越えた性質を考慮すると、各国間での法制度調和が重要な課題となる。現在、日本の極めて寛容な制度、米国の判例依存型制度、EUの厳格な規制型制度という3つの異なるアプローチが併存しており、多国籍AI企業にとって複雑な法的環境を形成している。^{[26] [31]}

WIPO（世界知的所有権機関）等の国際機関による調整や、二国間・多国間協定を通じた制度調和の必要性が指摘されており、今後の国際的な政策協議の動向が注目される。特に、G7諸国間でのAI著作権に関する共通原則策定や、WTO知的財産関連協定の改正議論も検討されている。^[6]

このAnthropic和解事件は、AI時代における著作権保護の新たな地平を開いたと同時に、技術革新と創作者権利保護の調和という永続的課題の複雑さを改めて浮き彫りにした。今後の類似事件の帰趨と、それに基づく業界慣行及び法制度の発展が、AI技術の健全な発展と創作活動の持続可能性の両立を左右することになるだろう。^{[1] [3] [33] [5]}



1. <https://fortune.com/2025/08/27/anthropic-settlement-with-authors-may-be-the-first-domino-to-fall-in-ai-copyright-battles/>
2. <https://abcnews.go.com/US/wireStory/book-authors-settle-copyright-lawsuit-ai-company-anthropic-125003388>
3. <https://www.euronews.com/next/2025/08/27/anthropic-settles-ai-copyright-lawsuit-with-book-authors>
4. <https://www.reuters.com/legal/government/anthropics-surprise-settlement-adds-new-wrinkle-ai-copyright-war-2025-08-27/>
5. <https://www.wired.com/story/anthropic-settles-copyright-lawsuit-authors/>
6. <https://www.dailyjournal.com/articles/386130-why-ai-s-use-of-shadow-libraries-should-alarm-us-all>
7. <https://fortune.com/2025/07/28/a-copyright-lawsuit-over-pirated-books-could-result-in-business-ending-damages-for-anthropic/>
8. <https://news.sky.com/story/british-authors-absolutely-sick-to-discover-books-on-shadow-library-allegedly-used-by-meta-to-train-ai-13336716>
9. <https://kindlepreneur.com/anthropic-ai-lawsuit/>
10. <https://www.pcmag.com/news/anthropic-settles-lawsuit-with-authors-over-use-of-pirated-books-for-ai>
11. <https://fortune.com/2025/06/24/ai-training-is-fair-use-federal-judge-rules-anthropic-copyright-case/>
12. <https://www.hsfkramer.com/insights/2025-06/federal-judges-back-ai-training-as-fair-use-but-questions-remain>
13. <https://www.bbc.com/news/articles/c77vr00enzyo>
14. <https://aifray.com/breaking-anthropic-settles-book-authors-copyright-class-action-win-for-lawyer-who-got-fox-to-pay-800m-for-falsehoods-about-voting-machines/>
15. <https://economictimes.com/news/international/us/biggest-copyright-case-ever-certified-could-cost-the-ai-industry-billions-industry-warns-of-financial-ruin/articleshow/123210403.cms>
16. <https://evotek.vn/en/ais-future-at-risk-massive-copyright-class-action-sparks-industry-alarm/>
17. <https://www.dentons.com/en/insights/articles/2025/july/28/fair-use-or-foul-play>
18. <https://www.ropesgray.com/en/insights/alerts/2025/07/a-tale-of-three-cases-how-fair-use-is-playing-out-in-ai-copyright-lawsuits>

19. <https://www.crowell.com/en/insights/client-alerts/ai-companies-prevail-in-path-breaking-decisions-on-fair-use>
20. <https://www.debevoise.com/insights/publications/2025/02/an-early-win-for-copyright-owners-in-ai-cases-as>
21. https://www.quinnjapan.com/news/pickout/240322_01.html
22. <https://www.reedsmith.com/en/perspectives/2025/07/a-new-look-fair-use-anthropic-meta-copyright-ai-training>
23. <https://www.netizen.net/news/post/6193/metasp-controversial-ai-training-piracy-allegations-explained>
24. <https://japannews.yomiuri.co.jp/society/general-news/20230429-106420/>
25. <https://shift-ai.co.jp/blog/5413/>
26. <https://keisenassociates.com/japan-signals-potential-copyright-law-revisions-in-response-to-generative-ai/>
27. <https://www.privacyworld.blog/2024/03/japans-new-draft-guidelines-on-ai-and-copyright-is-it-really-ok-to-train-ai-using-pirated-materials/>
28. <https://chosakukenhou.jp/改正著作権法-第30条の4解説：ai・ビッグデータ時/>
29. <https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/aiandcopyright.html>
30. <https://zelojapan.com/lawsquare/35949>
31. <https://smeai.org/index/ai-legal-framework/>
32. <https://www.latimes.com/business/story/2025-08-26/ai-copyright-lawsuit-settled>
33. <https://www.publishersweekly.com/pw/by-topic/digital/copyright/article/98493-tentative-agreement-reached-in-anthropic-copyright-lawsuit.html>
34. <https://arstechnica.com/tech-policy/2025/08/authors-celebrate-historic-settlement-coming-soon-in-anthropic-class-action/>
35. <https://news.bloomberglaw.com/class-action/anthropic-settles-major-ai-copyright-suit-brought-by-authors>
36. <https://www.mishcon.com/generative-ai-intellectual-property-cases-and-policy-tracker>
37. <https://techpolicy.press/generative-ai-and-copyright-issues-globally-ani-media-v-openai>
38. <https://www.dglaw.com/court-rules-ai-training-on-copyrighted-works-is-not-fair-use-what-it-means-for-generative-ai/>
39. <https://www.hollywoodreporter.com/business/business-news/anthropic-settles-ai-lawsuit-authors-1236353836/>
40. <https://www.yomiuri.co.jp/national/20230516-OYT1T50023/>
41. https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2024pdf/20240920031.pdf
42. <https://www.bbc.com/news/articles/c70w24j7jk1o>
43. https://www.bunka.go.jp/english/policy/copyright/pdf/94055801_01.pdf
44. https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/pdf/93903601_01.pdf
45. <https://www.corporate-legal.jp/matomes/5645>
46. <https://houmu-pro.com/property/297/>
47. <https://www.kottolaw.com/column/250707.html>
48. <https://olartemouere.com/en/fair-use-in-ai-training/>

49. https://www.publication.law.nihon-u.ac.jp/pdf/property/property_18/each/08.pdf
50. <https://ppl-ai-code-interpreter-files.s3.amazonaws.com/web/direct-files/a614bf92a76efe6023c33564f5580330/3dac5e0a-ec3a-4324-87a1-690554b76000/38da185d.csv>